

EurekaXIII

六年制通信 No.18 令和7年9月5日(金)号

百見は一考に如かず

始業式で話したことを整理して書いておきます。

まず署名のこと。保護者の皆様に再度ご協力をお願いしてほしいと話しました。次に、この異常な暑さには十分に気をつけること。私の体感ではお盆の頃よりこの二、三日の方が暑いです。本当に体験したことのない暑さがまだ続きそうなので、そして秋をすっ飛ばし急に冬が来そうな気もするので、とにかく体調管理に気を使ってください。また、通学時だけでなく自転車に乗る時は道交法をよく守り、必ずヘルメットを着用しなさい。自動車がよけてくれると思ったら大間違いです。もっと怖がって自転車に乗ってください。油断大敵ですよ。

9月1日は防災の日。関東大震災の日です。このところ南海トラフ地震の想定地をよけるかのように、あちこちで地震が起きています。いずれ三重県にも大きな地震が起きることでしょう。私たちも、仮に授業中に被災した場合どのように行動するか、役割分担を決めています。しかし、いつ起こるかかわからないので、どのように細かくシミュレーションをしても、ありとあらゆるケースを網羅することはできません。君たちの登校中に起こるかもしれない、下校中かもしれない、電車の中かバスの中かもしれない、休みの日かもしれない、早朝か深夜かもしれない。そもそも地震の規模がわからない。震源地によっては津波の大きさも変わってくるに違いない。要するに、起こってみないと、どのように行動すべきかがわからないということです。偶発的要素も多いでしょうから、きっと百点の行動はとれない気がします。それに、私たちも被災する可能性は十分にありますからね。君たちは基本的に自分の身は自分で守る以外ないと思います。こういう場合はこうすると、保護者と確認をしておくことも重要です。その通りにいかないことも想定したうえで、です。もし、どこかの避難場所に行くことになったら、君たちは若いだからみんなの助けとなってほしいと思います。食料を配布したり、子どもやお年寄りの世話をしたり、掃除をしたり、できることを見つけて戦力になってほしい。ただじっと座って、行政の人が何かをしてくれるまで待っているような若者であってはけませんよ。幸運の女神が一番嫌うことですからね。

夏休み、しっかり勉強できましたか。早く自分の将来像が描けるといいですね。勉強と言えば、君たちは「百聞は一見に如かず」という言葉を知っていますよね。百回聞くことは一回見ることに及ばないという意味です。何回も聞くより一回見たらわかる、ということですね。そして、この続きを誰かが作ったようで…。「百見は一考に如かず」という言葉があります。何回も見るとより一度考えたらわかる、ですね。聞くより見る、

見るより考えると。これ、簡単なようですけど難しいのですよ。考えるということは誰にでもできるようですけど、なかなか、修行のいるものです。考えるには、もっと言えば正しく考えるには、正しい知識が必要だからです。

わからないものをわかろうとする努力を重ねないと考えるために必要な基礎知識が身につけません。何も知らない人が「考える」ことはできないのです。この、わからないものをわかろうとするプロセスを「勉強」と言います。わかっていることを素早くできるようにするのは「訓練」です。こういう反射を鍛えることは時間短縮の面からは有効ですが、それだけと言えればそれだけのことです。わからないことに挑むのが勉強ですから、わからないものに出会った時にどのような態度をとるか、それが問題になるわけです。どうしても忍耐力が必要になりますから、「面倒臭い」という感情は勉強の敵です。逃げていては勉強になりません。ということは、考える大人になれないということです。怖いでしょ。

中高の授業は、このあたり、非常にうまくできているのです。少しずつですが小さな壁を作っているのです。いきなりではなく次第に難しくなっていくので、学年が進むにしたがって、わからないという経験ができるようにしてあります。しかも、しっかり取り組めば克服できるように設計されているのです。中高で習うレベルは、わからないと思って必ず乗り越えられます。大切なのは、「一考」に到るまで努力をやめないことです。勉強を放棄しないことです。前にも言いましたが、「今日逃げたツケを払うのは明日の自分」です。つけ加えるなら、逃げている限り「一考」には到達しないということです。考えることのできる大人になりたいと強く思ってくださいね。

今週のおすすめ

・城田真一 『看守の流儀』 (宝島社文庫)

これは犯罪者の更生を見守る刑務官の物語です。夏休み前にドラマを観ました。いや、これは原作を読んでから見るべきでした。本では作者が最後まで明かさなかった主人公の秘密が、ドラマではすぐにわかってしまうので。主人公は、ドラマではどちらかといえば宗片刑務官ですが原作では明らかに火石指導官のように思います。

ドラマでも本でもありましたが更生を願うあまり、受刑者に自分の携帯電話を貸して娘と話をさせるシーンが出てきます。これ、どうかなあ、かなり重い懲戒になると思うのですがドラマも本もスルーされていましたな。不思議だ。

学生時代に同じ下宿にいた友人が刑務官になりました。毎日が体力勝負だと言っていましたな。彼は幼い時に父を亡くし、家計を助けるために新聞配達をしながら京都のアテネ・フランセに通いフランス語の勉強をしていました。もちろん一切の贅沢をせず金沢の実家に仕送りまでしていました。で、私の部屋に入り浸って(私が大学から帰ると部屋で待っていることがよくありました)、大好きな文学の話を腹いっぱいしてそのまま朝を迎え新聞配達に向かう、そんな日々が懐かしく思い出されます。火石たちの勤務地が金沢なので、つい友人と私のささやかな青春時代を懐かしみました。

BGMは 大貫妙子の 突然の贈り物 でした…。